

2019年6月26日(水)第10号

共同研究推進委員会通信

発行：教育学部共同研究推進委員会/共同研究推進委員長

自分の考えや気持ちを伝え合う活動

6月21日(金)附属小学校において第16回校内研究全体会が行われました。授業者は神村好志乃先生。6年1組にて外国語の授業が公開されました。

授業は附属小学校の研究テーマである「学びを結びつける力の育成」を踏まえ、児童同士が「言語活動」をとおして、どのように学びを深めていくことができるかが大きなポイントでした。新しい学習指導要領(外国語科)においては「言語活動」が再定義されており、それは「自分の考えや気持ちを伝え合うこと」とされています。つまり、練習して覚えたことを言う活動から、自分の本当の気持ちを「やり取り」する活動を通して英語の表現や語彙を習得させていくという指導法です。

神村先生の授業は前半で、指導者とALTの対話や、教師と児童との対話を通して「味覚」を含めた **What sweet food do you like?** などの表現を理解させていきました。そして、後半は(時間が少なかったのですが)、児童同士が本当に好きな「味」や「食べ物」を英語でやり取りしていくこととなります。

授業検討会では、児童同士の対話を通して「salty と sour はどこが違うのか」などの疑問が引き起こされたこと、また、「salt と salty は関係がある」ことなど、言語活動を通して、児童同士の学び合いが起こって

いるのではないか、ということが話題になりました。一方で、「自分の本当の気持ちを言うことになると語彙が不足して日本語になる児童がいた」なども課題として出されました。さらに、「What salty food do you like? と聞くことは果たして自然な『言語活動』として適切だったか」など、児童同士の「言語活動」を巡って活発な意見が交わされました。75分予定されていたリフレクションの時間は、あっという間に過ぎていきました。

共同研究者である筆者のほうからは、言葉の本来の役割は「気持ちや考えを」伝え合うことであり、外国語であっても、実際に考えや気持ちを伝え合う体験をすることが大切であること。また、今後も附属小学校外国語部としては、言語活動を工夫することによって、子供の意欲を引き出し、説明型の授業ではなく、「言語活動」を通して、児童が



学び合う授業を創り出していきたいということを述べさせていただきました。(文責：大城賢/外国語共同研究者)